

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3771100777		
法人名	特定非営利活動法人すばる		
事業所名	すばるグループホーム		
所在地	香川県東かがわ市馬篠333番地14 (電話)0879-25-3282		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価決定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(20年10月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 25日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	15人 常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(10月29日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 86歳	最低 70歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	近藤内科クリニック 軒原医院 山本内科クリニック 白鳥皮膚科クリニック さぬき市民病院・合田歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元手袋縫製工場の2階を居心地よく生活できるよう改修して開設された事業所である。周囲に民家がなく近隣住民や地域との交流が図りにくい立地条件のなかで、利用者一人ひとりのそれまでの生活を大切に、そして継続できるよう支援したいという職員の熱意と工夫で運営されている。日々のケアの実践では、常にばつぐんの笑顔で支援することに努めている。さらに、事業所の広い共有空間をもっと改善することで地域住民に居心地のよい場を提供し、地域との関係づくりに発展していくことが考えられる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価でいくつかの改善項目が示されており、その後、職員間で課題を共有し、具体的に解決できるところから改善し、実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解し、評価を業務の見直しの機会と捉えてサービスの質向上に生かすよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、事業所の状況報告や運営上の課題、利用者や地域の交流を深めるための積極的な意見交換の場になっている。今後、市行政への働きかけや運営推進会議を活用し、老人会・自治会などと協力・連携を深めて地域密着型事業所の役割が果たせることに期待している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態を面会時や電話で状況を報告している。また、年3回発行のホーム便り”すばるニュースレター”で行事の様子や事業所での暮らしぶりを写真も入れて紹介し、家族からも好評を得ている。加えて、新たに設置したご意見箱がもっと有効に活用していただけるよう、設置場所や表示などの工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周囲に民家がなく、気楽に近隣住民との交流を図ることが難しいが、地域のボランティアが行事などで訪問してくれたり、時には近くの喫茶店へ出かけ、ここでお茶を飲みながら地元の人との交流に努めている。もう少し外出機会を増やしたいとの考えもあり、その取り組みに期待している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ運営している。しかし、地域密着型としての役割を果たすための理念の必要性を認識しているが、見直しには取り組めていない。	○	この機会に、地域密着型サービス「地域の中でその人らしく」支援していくという役割について検討し、その実践に向けて具体的な理念の構築に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は利用者が安全に、そして安心して自分の家族として生活できるように日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの喫茶店でティータイムをったり、秋祭りに獅子舞・やっこの訪問を受けるなど地元ボランティア達と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の課題に対して職員間で協議し、サービスの見直しと改善に具体的な取り組ができているものもある。管理者・職員は評価の意義を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流を図ることについて参加者から情報を把握できる機会としている。自己評価や外部評価の結果も報告し、課題やその改善経過についても意見をいただきサービス向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談派遣事業に登録し、また、利用者の介護保険認定調査時などの機会を通じて、事業所の状況を報告したり相談できる機会を持っている。	○	さらに、地域密着型事業所の役割について理解を深めることが必要と思われるので、事業所からの情報提供を積極的に行うための工夫、例えばすばるのリーフレットを置かせてもらうなどの取り組みに期待している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については面会時を中心に報告している。必要時は電話連絡をしている。また、個人ごとの写真などを添えたすばるニュースター(年間3回発行)は、家族から喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価を受けてご意見箱を設置したが、実績はない。面会時に家族が意見や要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている。	○	設置したご意見箱が利用者や家族にもっと有効活用していただけるように設置場所や表示方法をさらに検討し、より良いサービスにつなげていけるよう期待している。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着がよく、殆ど職員の入れ替わりがない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、勤務ローテーションの中で参加し、未受講者への伝達も行われ知識の共有が図られている。しかし、事業所として一人ひとりの具体的な研修計画は立てられていない。	○	管理者を中心に組織として運営していくために組織図を作成し、それぞれの職員が果たす役割(身体拘束廃止委員会担当など)を明確にし取り組むことに期待している。その上で、職員一人ひとりがその役割を果たすための研修計画が必要と思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者と交流するなかでサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に訪問面接したり、事業所見学の際は一緒にお茶を飲んだり食事をしながら事業所や職員、利用者との関係を深め、安心感をもって利用できるよう対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、お互いの思いを尊重しながら共に過ごす時間を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や仕草から利用者の思いや意向を把握し、それに沿うよう支援している。また、家族の面会時にも希望や意向を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の立場でアセスメント・モニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの定期的な見直しと状態変化など必要に応じて利用者や家族等と話し合い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的なかかりつけの往診、受診時の送迎、付き添いや買い物などの外出支援やディサービスを利用するなど事業所の多機能性を活かした支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係ができており、一人ひとり通院・往診により適切な医療が受けられるような支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢者が多いため重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族と話し合いを重ね気持ちを確認しながら、かかりつけ医とも相談し、思いに沿ったケアができるよう考えている。	○	重度化や終末期に向けた方針・対応について重要事項説明書に記載するなど利用者・家族、職員およびかかりつけ医などの関係者間の意識の共有が必要と思われる。また、看取り支援のマニュアルなども準備し、それに伴う研修を行い安心してケアが提供できることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応について利用者・家族・職員間で確認しあい同意を得ながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう心がけている。また、記録を始め個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活プログラムはあるが、一人ひとりのその日の体調や思いを配慮しながら柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園の野菜が食卓に上がることも有り、一人ひとりの状態に応じた声かけや介助をしながら食事、片付けをしており、食事は楽しい時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の基本的な流れの中で行っているが、利用者の希望する時間に可能な範囲で対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくり、料理の準備・片付け、洗濯たたみなど一人ひとりの状態や好みに応じた役割を果たしている。また、花を生けたり籠を作ったりなどの趣味を楽しめる時間や場面をつくり、時には近くの喫茶店に出かけて気晴らしをするなど支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外出できるように日常的な散歩や買い物に出かけたり、季節に応じた行事や地域の催しにも参加できるよう支援している。さらに回数が増やせるような取り組みの必要性を認識している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に錠をかけた状態について、利用者や家族の心理的圧迫感を与えないような取り組みに改善の努力はうかがえる。	○	利用者の行動把握や見守りの工夫などにより、利用者が自由に出入りできる時間帯を設ける取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て総合訓練を受けている。今後、定期的な避難訓練の開催と利用者・近隣の方の参加についても検討が予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の協力を得ながら管理者が献立を立てている。水分や食事の摂取量にも配慮し、利用者一人ひとりのペースや好みに応じて支援している。飲食物量は生活記録表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間等の自由にくつろげる場所のテーブルや室内に生けられた花々から季節が感じられる。玄関を入った所の広い居間は業務用の家財道具や多くの飾りなどが置かれ、また、物干し場、併設のディサービスの場としても使用しており、広い共用空間が十分に生かされていない。	○	利用者・職員にとって安全・快適、かつ有効に活用し、居心地よく過ごせるように室内のレイアウトの工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	二人部屋や畳の部屋を準備し、利用者の希望に合わせて入居していただいている。使い慣れた筆筒や家族の写真などを持ち込みそれまでの生活が継続でき、その人らしく過ごせるよう支援できている		